

# 平成17年度冷水病保菌状況調査

吉岡 剛

## ◆背景・目的

琵琶湖や河川における冷水病菌の動向を把握するため、各漁法により漁獲されたアユおよび他魚種の冷水病保菌率を調査した。

## ◆成果の内容・特徴

- ・漁獲されたアユおよび他魚種は各ロットごとに60尾を検査し、保菌率(%)を算出した。検査は、鰓を検査部位とし、16SリボゾームDNA領域を標的としたnested PCR法により行った。
- ・エリで漁獲されたアユの保菌率は0～5.0%、ヤナで漁獲されたアユの保菌率は0～6.7%、刺網で漁獲されたアユの保菌率は0～8.3%と全ての時期において10%以下と、例年に比べ低い状況で推移した。
- ・沖すくい、ヒウオ曳きのアユの保菌率は共に0%であった。
- ・沖曳き網で漁獲された他魚種(ワカサギ)の保菌率は0～3.3%であった。

## ◆成果の活用・留意点

本年度は、各時期、各漁法とも保菌率が低い状況で推移した。今後も、冷水病保菌検査を継続し、今後の傾向や本年度に保菌率の低かった原因を検討していく必要がある。

表1. 平成17年度冷水病保菌率(%)

魚種	漁法	場所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
アユ	エリ	A	0%	0%									0%	0%	
		B	0%	0%	0%	0%				5.0%			0%		
		C		0%											
		D									5.0%				
		E			1.7%										
アユ	ヤナ			6.7%	0%	0%									
		刺網	A	1.7%	0%	0%									
アユ	刺網	B	1.7%	1.7%	0%	0%	0%						8.3%		
		沖すくい			0%	0%									
ワカサギ	沖曳き網	ヒウオ曳き								0%					
								1.7%	0%	3.3%					